

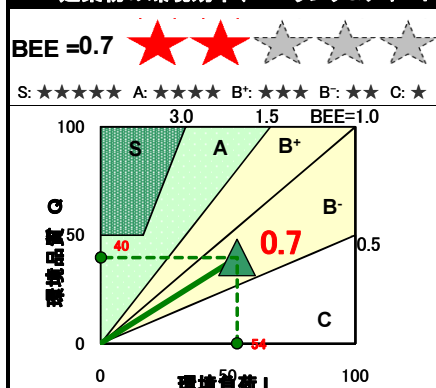
1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	生田産機工業 工場棟	階数	地上4F	
建設地	京都府京都市	構造	S造	
用途地域	工業地域	平均居住人員	70 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年	
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2011年12月 予定	評価の実施日	2010年11月1日	
敷地面積	2,872 m ²	作成者	山下耕平	
建築面積	967 m ²	確認日	2010年11月10日	
延床面積	2,508 m ²	確認者	山下耕平	

外観パース等

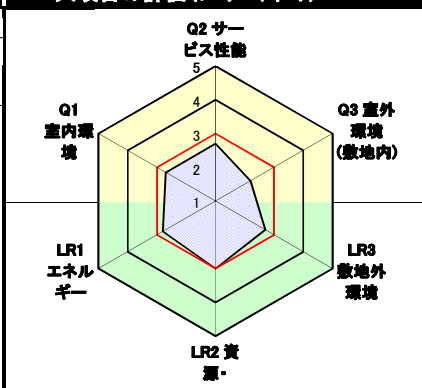
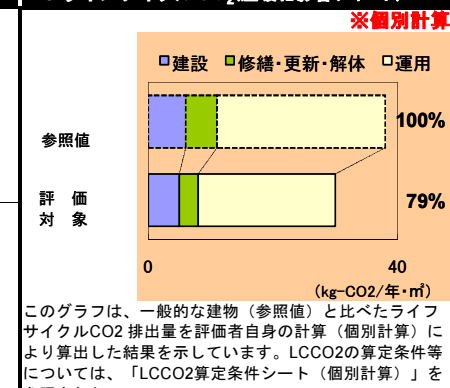
図を貼り付けるときは

シートの保護を解除してください

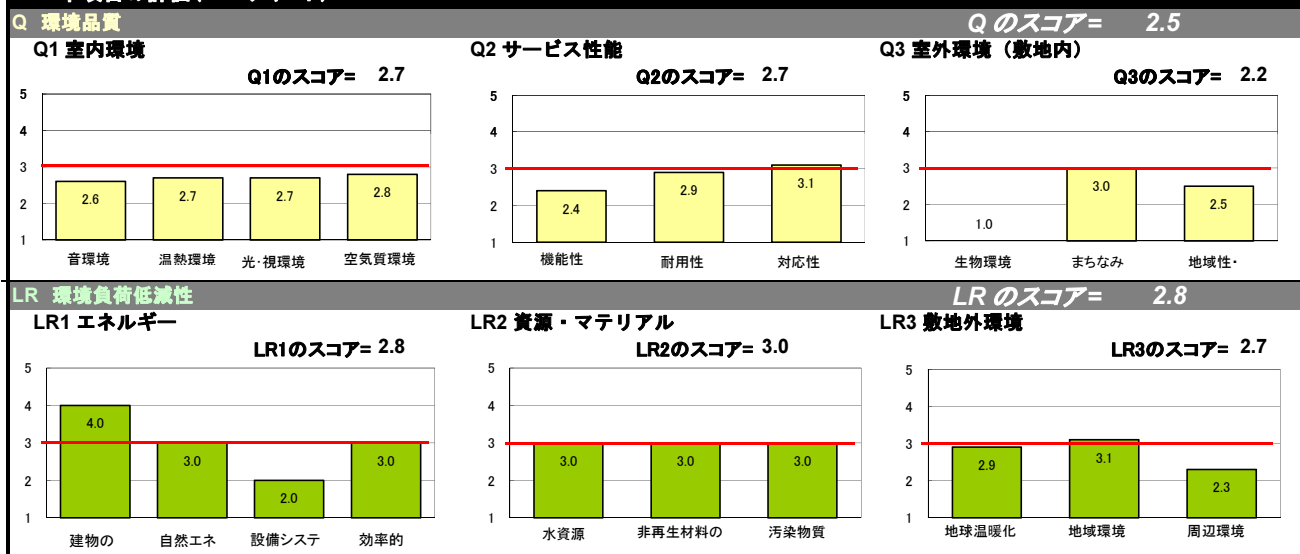
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合			その他
安全であり、機能的かつ快適な空間を設計すること。そして、省エネルギーに配慮すること。			注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
事務室の大部分をガラス張りとするにより、明るく快適な空間となるように設計した。	事務所部分の床をOAフロアにすることにより、フレキシビリティを高めた。	3階部分をキャンチにより張り出すことにより、街並みの新たなシンボルとなるようにデザインした。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
建物の外皮に複層ガラス・断熱材を使用することにより、空調負荷の低減を図った。また、高効率照明器具を使用し、消費電力の低減を図った。	節水型衛生器具を採用し、水資源の節約を図った。	生田産機工業の自社開発の風力発電システム「京風車」を設置し、自然エネルギーの利用に努めた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される